

笑顔を広める！
酪農女子



株式会社mosir(モンリ)
小林牧場(別海町)
小林晴香さん

農家の女の子が「自分の家を継ぐ」選択肢を！

たところ「農業女子プロジェクト」を知り、全国から集まる女性農業者にたくさんの刺激を受けたそうです。一方、「別海町は生乳生産量全国」ということを誰も知らなかったことにショックを受け、現在は別海町酪農女子同盟 Strongly 立ち上げ、情報交換、女性のためのオリジナルツナギのコラボ販売など別海町から酪農の楽しさを発信し、活動の幅を広げているところです。



牛舎内を定期移動する自動給餌機(上)と24時間稼働の搾乳ロボット(下)。乳質や牛の健康状態もパソコンやスマホで確認できる

後継ぎ予定だった弟が就職し、「それじゃあ私が」と、介護関係の仕事をしていた岩見沢からUターンした晴香さん。「搾乳や餌やりはロボットを利用すると女性だけでも酪農はできる。でも酪農の世界ではまだまだ後継ぎは男性...」。晴香さんが後継者、新規就農者を問わずに、酪農女子がもっと増えてほしいと思っています

別海町をもっと知ってもらいたい



晴香さんの今の目標は「80歳になっても現役酪農家でいること」。そのためにさらなる経営努力と仲間づくりを続け、地域の発展にも貢献している晴香さんでした。

ぎっくり腰をきっかけに「自分の体が動かなくなったら、この先、農場はどうする？」と真剣に将来と向き合い、決意したのが新牛舎の建築でした。牛の気持ちになって考え、好きなときに食べたり搾乳できるように、餌やり、搾乳、室温調整などにロボットや自動化を積極的に取り入れ、両親と3人体制で2000頭の飼育を可能にし、時間の余裕も生まれました。



「子どもの頃から当たり前だった牛たちとの暮らしをできるだけ長く続けたい」

80歳まで現役でいるのが夢

※農業女子プロジェクト/農林水産省が農業に携わる女性を応援する取り組み。

農家が商品を作って販売

enjoy! 6次産業化

最北のワイナリー 森 臥 096-0074 名寄市弥生674番地

enjoy! ワイン好き農家が挑む新たなチャレンジ 最北のワイナリーから豊かな香りを



バックスと小公子(山ブドウ交配種) 実る美しい畑

大きな失敗を糧に 美しいブドウ畑へ

北海道のワイン産業が年々盛り上がりを見せている中、道北・名寄という厳しい自然環境に寄り添いながら、名寄産ブドウ100%にこだわったワイン造りを行うご夫婦がいます。日本酒が大好きで、農業研修時代に旭川の酒造メーカーでお酒造りを学んだことのある竹部裕二さんと、稲作農家の5代目のごうしでも自分が栽培したブドウからワインを作ってみたかったとい



う麻理さんが出て結婚。麻理さんがワインに対する想いを打ち明けると、裕二さんが「楽しそうだね」とあつさり承諾したことからワイン造りがスタートしました。

2004年に30本のシャルドネを、2006年には数品種、計2400本を定植するまでになりましたが、翌年、ブドウの樹が病気になるまで抜いて焼くことに。麻理さんはあの光景を思い出すと、辛くてしばらくはワインを持つことさえできなかったとのこと。

名寄産ブドウ100% 念願の醸造へ

2人を再びワイン造りへと駆り立てたのは、焼いてしまったブドウへの思いからでした。「今度こそ」の気持ちで2011年にバックスと小公子を定植。春と秋の遅霜・早霜対策には果樹専用の固形燃料を夜通したくなどしてブドウを守り、2015年夏に念願の初リリース。「厳寒地のワインらしく酸がきれいに残り、すっきりと料理の味を活かす味わい」と語る裕二さん。取材時に建設中だったワイナリーで、栽培も醸造も名寄のワインが誕生する日も近いことでしょう。



イベント開催などで名寄の魅力を発信する「森臥ハウス」。ワイン販売の情報は「森臥」ホームページで

※2018年産までは10R(トール)ワイナリー(岩見沢市)で委託醸造。



竹部 裕二さん 麻理さん